

「地域と学校の連携・協働」推進実践交流会

研修1 行政説明

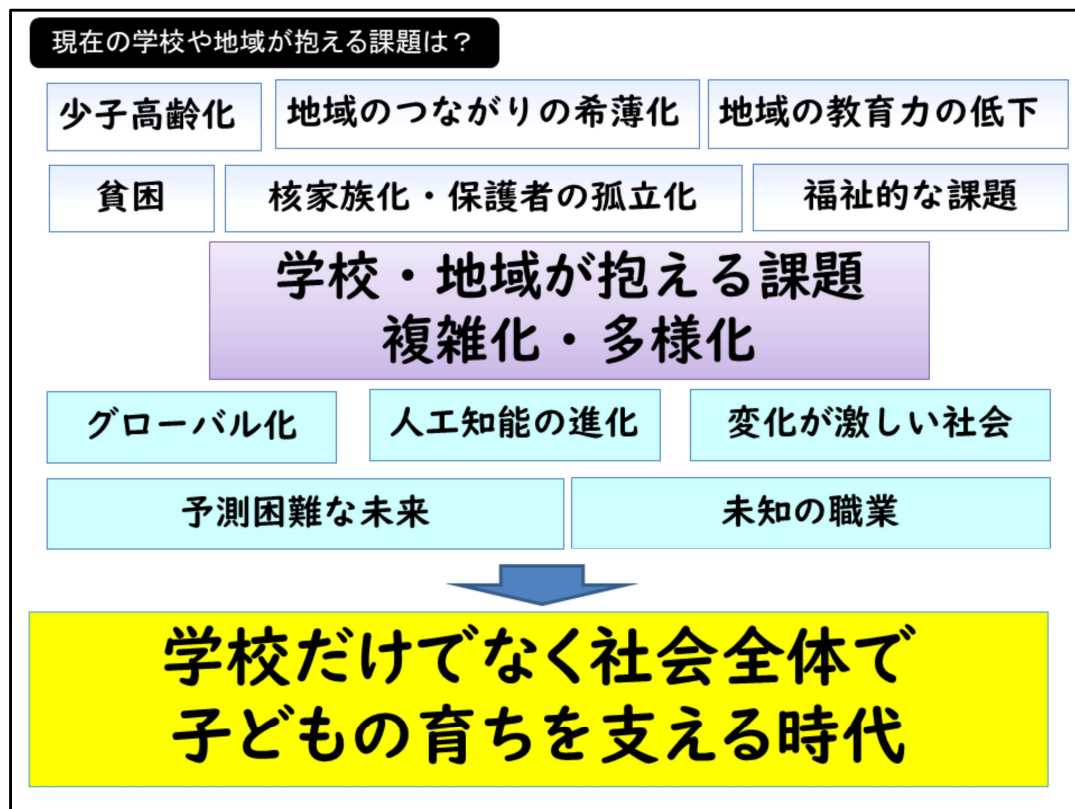
地域と学校の連携・協働の 意義について



皆さん、こんにちは。

天草教育事務所 社会教育主事の緒方です。

最初に私から、地域と学校の連携・協働の意義についてご説明させていただきます。よろしくお願いいたします。



現在の学校や地域は、全国的にみて、このような課題があると言われております。天草でも、あてはまるものがあるのではないのでしょうか。また、現在の社会は、変化が激しく、予測困難な未来が来ることが予想されています。このような社会だからこそ、学校だけではなく、改めて、社会全体で子供の育ちを支えていこうという気運が高まっています。

社会に開かれた教育課程が必要である

「社会に開かれた教育課程」

社会のつながりの中で学ぶことで

子供たちは、自分の力で人生や社会をよりよくできるという
実感をもつことができます。

このことは、変化の激しい社会において

子供たちが困難を乗り越え、
未来に向けて進む希望や力になります。

そのため、これからの学校には

社会と連携・協働した教育活動を充実させることが
ますます求められます。

〈令和2年2月発行 教育委員会月報 文部科学省教育課程課作成資料より〉



「コミュニティ・スクール」と
「地域学校協働活動」の一体的な推進

国では、子どもの育ちを、学校と地域でともに支えていくために、
「社会に開かれた教育課程」の実現を目指しています。

社会とのつながりの中で学習していくことで、子供たちは、自分の
力で人生や社会をよりよくでき、子供たちが困難を乗り越え、未来
に向けて進む希望や力になっていきます。そのため、これからの学
校には、社会と連携・協働した教育活動を充実させることがま
すま
す求められるとしています。そのために重要になるのが、次に説明
しますコミュニティ・スクール（学校運営協議会）と地域学校協働
活動の一体的な推進です。



「コミュニティ・スクール」って？

「**学校運営協議会制度**」を導入した**学校**のこと。学校と地域住民等が力を合わせて学校の運営に取り組むことが可能となる「**地域とともにある学校づくり**」への転換を図るための有効な仕組み。**地域住民が学校運営に責任と権限を持って参画し、合議体として協議する。**

学校運営協議会委員（地域住民、保護者、地域学校協働活動推進員など）

地方教育行政の組織及び運営に関する法律47条の5



コミュニティ・スクールとは、学校運営協議会制度を導入した学校のことです。天草管内の小中学校はすべてコミュニティスクールとなっています。学校運営協議会には、学校運営の基本方針を承認する、学校運営に関する意見を述べる等の役割があり、「学校の魅力や課題」「学校運営のビジョン」「めざす子ども像」「育てたい資質・能力」、「地域の課題」等を共有して、学校運営に地域の声を積極的に生かし、地域と一体となって特色ある学校づくりを進めていく“話し合いの場”として期待されています。

「地域学校協働活動」って？



地域の高齢者、成人、学生、保護者、PTA、NPO、民間企業、団体・機関等の**幅広い地域住民の参画を得て**、地域全体で子供たちの学びや成長を支えとともに、「学校を核とした地域づくり」を目指して、**地域と学校が相互にパートナーとして連携・協働して行う様々な活動**

地域が学校（子ども）を
支援する

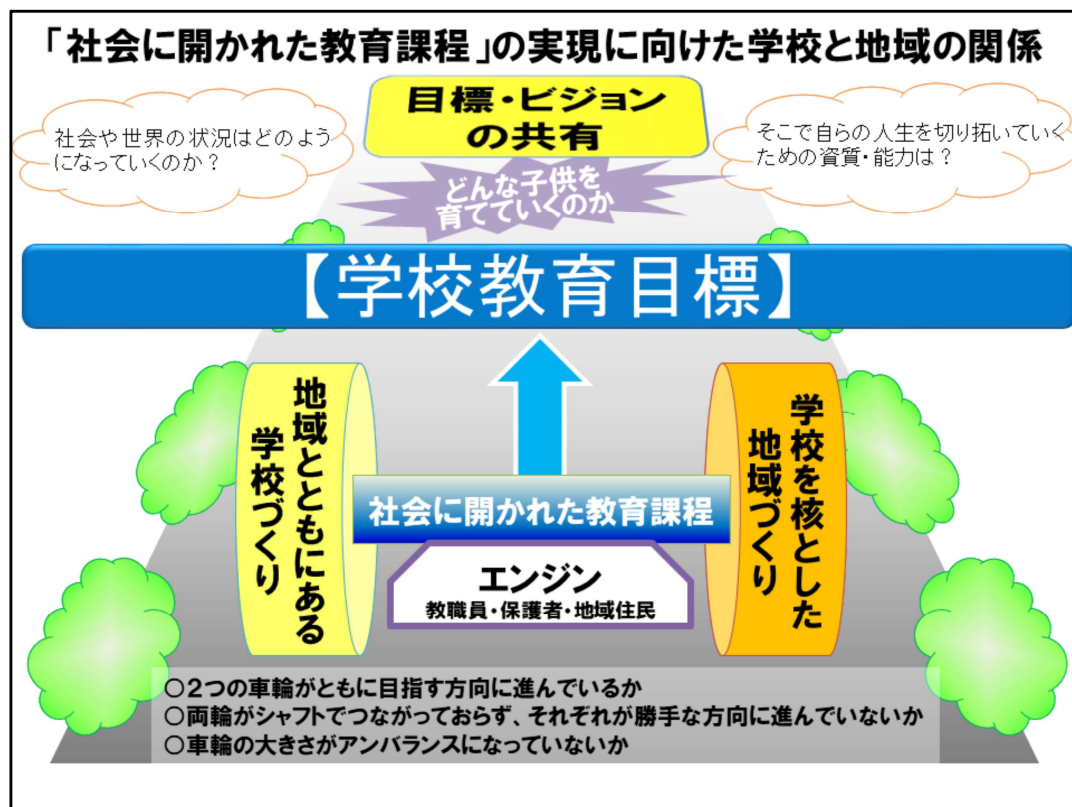
双
方
向

学校（子ども）が地域に
参画する・貢献する

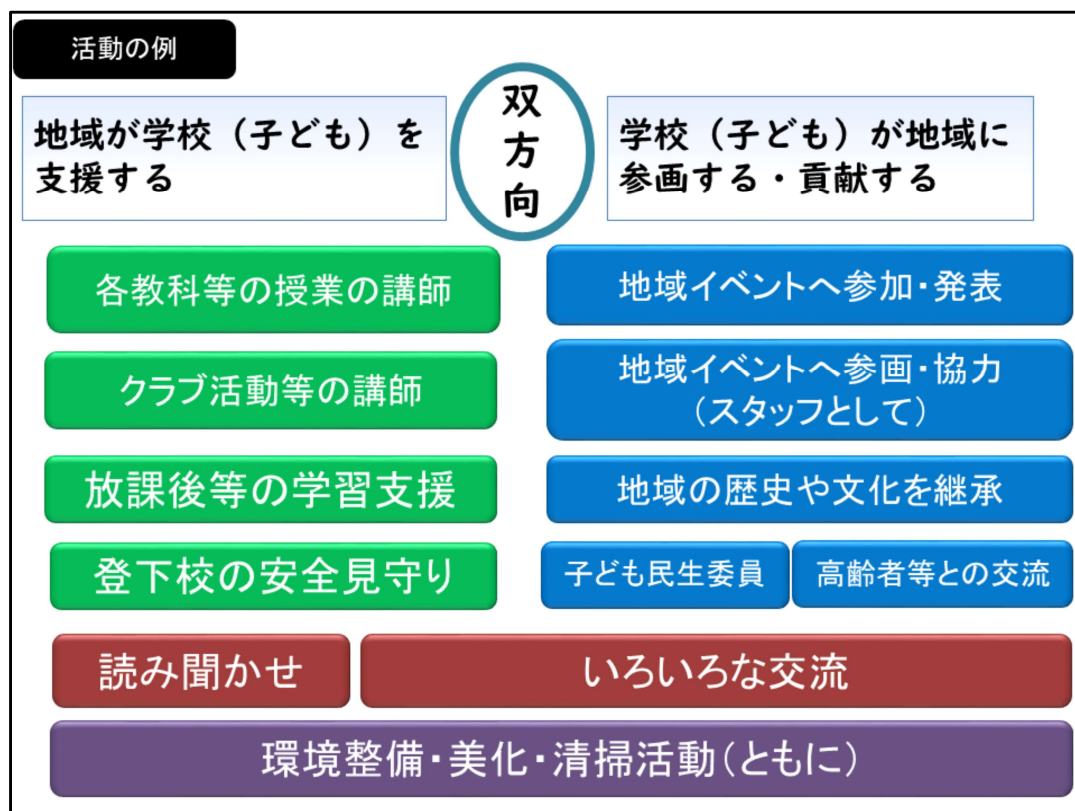
次に、地域学校協働活動ですが、レジューメの表紙にあります「地域と」「学校が」「連携する」活動のことです。地域のいろいろな人が、みんなで子どもたちの学びや成長を支えてくださっている活動全体をさす言葉です。タイプは様々ですが、「地域が学校・子どもたちを支援する活動」と、「学校・子どもたちが地域の課題に貢献したり、地域の行事等に参加・参画したりする活動」との、「双方向」での活動となるようにすることがポイントです。天草管内の各小中学校には、これらの活動のコーディネーターとして、「地域学校協働活動推進員」のみなさんが配置されており、各学校と地域をつなぐ役割としてご活躍いただいています。



こちらが、コミュニティ・スクールと、地域学校協働活動を一体的にすすめていく全体像です。★P 左の学校運営協議会で、子供たちや地域の未来や目の前の様々な課題について共通認識を持つ熟議の場をもち、目標やビジョンを共有し、★D その内容を意識しながら、地域学校協働活動推進員のみなさんを中心としたコーディネートの下、多くの地域住民の参画による地域学校協働活動を展開します。★そして、それを評価し 次の年度に向けて目標を見直したり、具体的な活動の内容を工夫・修正したりします。このようなPDCAサイクルにより、学校と地域がそれぞれに持つ力を効果的に発揮し、持続可能な形で進めていきます。



これは、「学校と地域の関係」を図示したものです。まず、地域の人々とともに、どんな子どもを育てていくか、目標やビジョンを共有します。そして、「地域とともにある学校づくり」と「学校を核とした地域づくり」の2つの車輪を、教職員や保護者、地域の方がエンジンとなって回し、進んでいくというイメージです。



天草管内でも、地域の皆様にご協力いただき、ごらんのよう
な素晴らしい活動がおこなわれています。

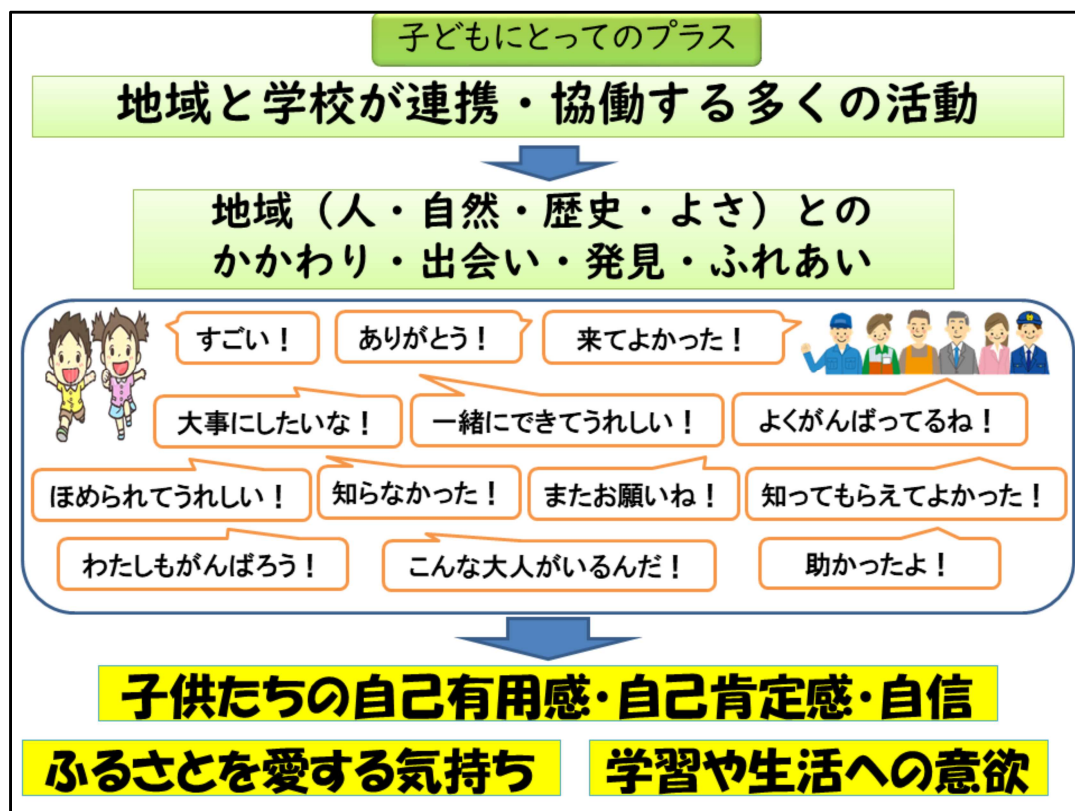
子どもにとってのプラス

- 楽しくて、より分かりやすい授業が受けられる。
- ふるさとのよさ（人や文化、歴史、産業等）を知ることができる。
- 地域の人々に愛され、支えられているという気持ちを感じる。
- 地域に貢献し、地域を大切にする気持ちが強くなる。

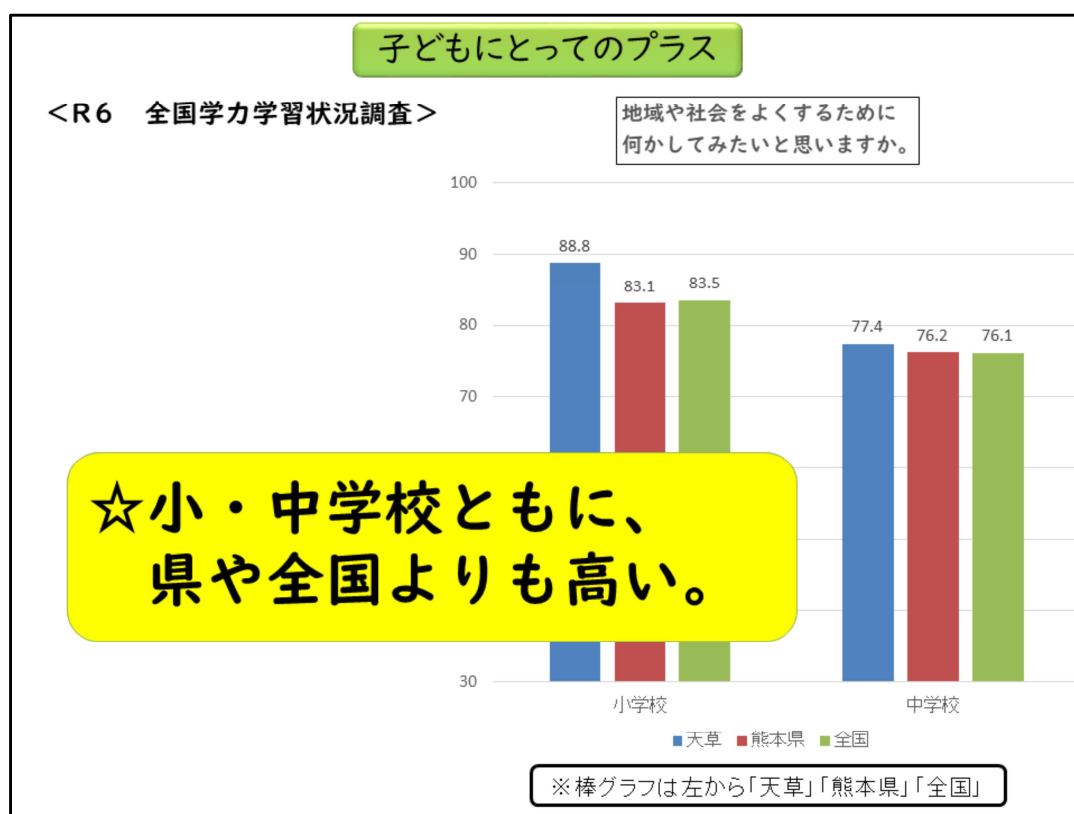
説明の最後に、このような活動がだれにとってプラスになるのか、という点で整理をしてみたいと思います。

まず、「子どもにとってのプラス」として、このようなものが考えられます。

より分かりやすく楽しい授業、ふるさとのよさを知る、人々に愛され、支えられているという気持ち、地域を大切にする気持ちが高まります。



また、地域と学校が、連携・協働する多くの活動を通して、子どもたちが、地域の『人・こと・もの』と関わりながら、中央のふきだしのような会話がかわされ、子どもたちの自己有用感や自信にもつながっていくと考えられます。



こちらは、令和6年度 全国学力学習状況調査の児童生徒質問紙調査の結果の一部です。「地域や社会をよくするために何かしてみたいか」の質問において、天草は、県、全国を上回っており、天草の多くの子供たちが、地域や社会への参画の意識を高めていることができています。

これは、今日、ご参加の皆様の、日ごろの様々な取組の成果と言えるのではないかと考えています。ありがとうございます。

学校にとってのプラス

- 学校の様々な課題が解決される。
(安全な登下校、環境整備、各行事の手伝い)
- 地域のよさを生かした学習や体験で、特色ある教育ができ、子どもの心の成長や学力向上につながる。
(見学、ゲストティーチャー)
- 教職員の働き方改革につながる。
- 学校への地域住民の理解が高まる。

次に、学校にとってのプラスとしては、ご覧のようなものが考えられます。学校のいろいろな課題の解決、学習や体験活動の充実と学力向上、働き方改革、地域の学校への理解などにも大きく影響します。

地域にとってのプラス

- 子どもの成長にかかわる「喜び・生きがい・感動」が得られる。（地域の方の声から）
- 子どもの参加で、地域の行事が活性化する。
- 伝統文化や地域で続けてきた活動やイベントが未来につながっていく。
- 未来の「地域を支える人材」が育つ。
(地域の人づくり)

地域にとってのプラスとしては、このようなことが子供たちのためにご協力いただいている、地域ボランティアの皆様から、「子供の成長にかかわることが、喜びや生きがいにつながっている」というような声を、よくお聞きします。また、子どもたちが地域行事等に参加することで、地域行事が活性化したり、地域として守りたい活動が未来へつながっていくというよさもあります。そのような子どもたちが、「未来の地域を支える人材」として育っていきます。



以上のように、コミュニティスクールと地域学校協働活動を一体的に推進していくことが、「子どもたちの成長や地域の創生」につながっていきます。

このあとの研修2で、ご発表いただきます、
苓北町立都呂々小学校の実践からは、「学校運営協議会と地域学校協働活動の一体的な推進について」、
天草市立五和中学校の実践からは、「生徒が主体となった地域参画の在り方について」、
上天草市立維和小学校の実践からは、「多様な主体と連携した、効果的な地域学校協働活動について」、
今後、ご自身の学校や地域での活動のヒントになるものがたくさんあるのではないかと考えています。一つでも多くのヒントを見つけていただくとともに、
それぞれの実践の具体的な取組や、それらを支える様々な人々の活躍、また、各活動の価値や意義を感じていただきながらご覧いただければと思います。
どうぞよろしくお願いいたします。以上で、わたくしの説明は終わります。